

第5学年A組 図画工作科学学習指導案

授 業 者
研 究 協 力 者

三浦 茉莉
長瀬 達也、坂本 英駿

1 題材名 おいでよ ぼくの島・わたしの島

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

新しく出会う技法に意欲的に取り組んだり、想像することを楽しんだりすることができる子どもが多い。本題材に至るまでに、クレヨンによる技法としてスクラッチやステンシル、水彩絵の具の技法としてスパッタリングやドリップングなどを体験し、造形遊びを楽しむ中で自分ならではの表し方を思い付いて試したり、想像した世界や風景を描き出したりする姿が見られた。造形遊びでのびのびと表現できる一方、いざ絵に表すとなった時に表すことを見付けることが難しい子どももいる。また、ある程度表現するとすぐに満足してしまい、活動が停滞する姿が見られることもある。

そこで、一人一人が自分の中に表したいことをもち、その思いが次第に増していくような題材との出会いが必要であると考え。子どもたちにとっては、いきなり描き始めるのではなく、想像したくなるような設定を加え、まずはその中に入り込むことが有効なのではないかと考えている。本題材を通して、決められた設定の中で想像を広げ、表現に没頭する子どもの姿を期待する。

(2) 題材について

島の絵を描くという本題材を通して期待する姿として、大きく二つ考えている。一つ目は、自分が島の所有者になるという設定にし、表したいことを見付けやすくすることで、想像を広げていく姿である。さらに、クラスみんなを楽しませる島にするという条件を追加することで想像が促され、表現に没頭する姿へとつながっていくのではないかと考えている。

二つ目は、様々な場面で自己決定をしていく姿である。例えば島を表す初めの段階で、どのような大きさの島にするか、自分のイメージに合わせて紙の大きさを選択することとなる。また、表現を始める前にある程度の表し方の方向性を見通す際、例えば紙を島の形に切ってから描く・描いてから切る、紙に直接描きこんでいく・他の紙に描いたものを貼るといった表し方を考えることとなる。実際に描く段階では、既習の描画材や表し方の中から表したい島のイメージに近付くように選択したり、組み合わせたりするといったことも行われるだろう。このように、自分にとって表しやすい方法を自己決定する経験を積み重ねていくことで、工夫して表す力の育成につながると考える。

これらを踏まえて本題材では、**形や色に着目して、島が楽しい場所になるように表す活動を通して、表し方を工夫する力の育成を目指す。**

(3) 指導について

授業デザインの取組一つ目及び三つ目との関連から、鑑賞の場を工夫する。子どもが必要なタイミングで造形的な気付きを獲得することができるようにしたい。そのために、子どもの活動の流れを途切れさせないよう、学習形態をグループの形にしたり、用具を取りに移動する過程で自然に自他の鑑賞が行われるような動線にしたりする。また、表現との往還が生まれやすくなるように、子どもの思考や表現の段階を踏まえて取り上げる作品を変える。例えば、島を構想する段階では教師の参考作品を、表現が進んだ段階では子どもの作品を取り上げることである。その際には、子どもが造形的な視点を意識して鑑賞に取り組むことができるよう、造形的視点に立って教師が価値付けたり、子どもの作品であれば作者である子どもに表現の意図を語らせたりする。

授業デザインの取組二つ目との関連から、子どもとの対話を大切にしたい支援を行う。アイデアスケッチを見ると子どもの表したいことをある程度把握することができる。けれども、それらは題材を進めるごとに変容していくことが予想される。そこで、構想の段階では特に、どのような島にしたいのかを尋ねることを中心とした対話を行い、語る中で想像が広がっていくようにしたい。表現が進んでくると、表し方に困り感をもつ子どもも見られることが予想される。その際には、既習の表し方や鑑賞で見付けた友達の表現のよさなどを想起させるといった、効果的な助言ができるようにしたい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。 (e27)
- (2) 表したいことを見付け、どのように表すかについて考えることができる。 (d21、d22)
- (3) 想像したことを表現したり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとする。 (a3、f37)

4 題材の構想（総時数 7 時間）

絵の具ともっとなかよし～モダンテクニックに挑戦～
様々な表し方による形や色の感じを楽しみながら、お気に入りの表し方を見付ける

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1 2	(1)「自分だけの島がもらえたら」という世界に浸り、想像した島をアイデアスケッチする。 ・お菓子でできた島にしよう。 ・お金の成る木があったらいいな。 (2)「その島にクラスみんなを招待するとしたら」という想像をする。 ・家具もお菓子でできていたら、みんなも食べられるね。 ・お金の木ばかりじゃ楽しめないから別の木も考えよう。	・島をより具体的に想像することができるよう、アイデアスケッチや対話の時間を保障する。 ・想像する活動が更新されていくように、自分の島を想像した後で島に招待するという条件を示し、もう一度考える活動を設定する。	・島を想像する活動に主体的に取り組んでいる。〈a3〉
クラスみんなが45分楽しめて、もう一度来たくなるような島にしよう。			
3 4 本時 5 6	(3) 想像した島を絵に表す。 ・楽しい雰囲気が出るように、明るい色合いにしよう。 ・この前試したスパッタリングで花火を表してみよう。 ・お城を付け足して、観光できるようにしよう。	・鑑賞と表現が往還するように、数名の子どもの作品を取り上げて、どのような島を想像したか、本時はどのように表現していくかなどを対話しながら全体で鑑賞する時間を設定する。 ・表したいことに合わせて表し方を考えることができるように、描画材を選択できる環境づくりをする。 ・表現しながら想像をさらに膨らませたり、表す上での困り感を解決したりすることができるように、子どもとの対話を大切にする。 ・表現を発展させていくことができるように、別の紙に描いて貼ったり、画面の中に自分を登場させたりするなどの表し方もあることを助言する。	・表したいことを見付け、どのように表すかを考えている。〈d21、d22〉 ・表したいことに合わせて表し方を工夫している。〈e27〉 ・自他の作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。〈f37〉
7	(3) 友達と作品を見合い、造形的なよさや面白さなどを味わう。 ・〇〇さんは、絵の具を飛ばして花火を表したんだな。次に私もやってみたいな。 ・〇〇さんの島の…なところが楽しそうだな。行ってみたいな。	・鑑賞する楽しさを実感することができるように、自他の表現意図や感じ取った友達の作品のよさなどを伝え合う時間を設定する。	・自他の作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。〈f37〉

◎本題材で育む主な資質・能力
形や色に着目して、島が楽しい場所になるように表す活動を通して、表し方を工夫する力〈e27〉

重ねて広がる形と色
彫りと刷りの繰り返しから表したいことを見付け、工夫して表す

5 本時の実際（5／7）

（1）ねらい 形や色に着目して、島が楽しい場所になるように表す活動を通して、表し方を工夫することができる。〈e27〉

（2）展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
7分	① めあてを確認する。 — めあて — クラスみんなが45分楽しめて、もう一度来たくなるような島にしよう。 〈予想される子どもの反応〉 ・花火が見える島を想像したよ。 ・今日は、果物の木をもっと増やそう。 ・クラスみんなが遊べるところを描きたいな。	○本時の見通しをもつことができるように、数名の子どもの作品を取り上げ、どのような島を想像したか、本時はどのように表現していくかななどを対話しながら全体で鑑賞する時間を設定する。
34分	② 想像した島を絵に表す。 〈予想される子どもの反応〉 【描画材や紙などを選択し、描く】 ・島から見える花火を、絵の具を飛ばして表現しよう。 ・お城を付け足したいから、別の紙に描いて貼ってみよう。 ・にぎやかな島に見えるようにペンで建物を描き足そう。 【表す過程で困り感をもっている】 ・思ったように描けない。見て描けたらなあ。 ・地面のざらざらした感じが出ないな。どうしたらよいか。 【ある程度描いて満足する】 ・全部描いたからもうやることなくちゃった。 ・次にどうしたらよいのだろう。	○表したいことに合わせて表し方を自己決定することができるように、紙や描画材を選択できる環境づくりをしておく。 ・表す上での困り感を解決することができるように、対話を通して聞き出し、友達の表現のよさを真似たり、既習の技法を使ったりすることを提案する。 ・表現が停滞している子どもがいた場合は、別の紙に描いて貼ったり、画面の中に自分を登場させたりする表し方もあることを助言する。 表したい島の感じになるように、描画材や表し方などを工夫している。〈e27〉 (活動の様子・対話・作品)
4分	③ 鑑賞を通して本時の学びを振り返る。 〈予想される子どもの反応〉 ・〇〇さんは、絵の具を飛ばして花火を表したんだな。次に私もやってみたいな。 ・クラスみんなに喜んでほしいから、次はお土産を買えるお店も描いてみよう。	・自他の学びのよさを共有し、次時の活動につなげることができるように、鑑賞を通して気付いたことや次時に頑張りたいことを問い掛ける。

令和7年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○三浦茉莉、大森果歩

1 昨年度の成果と課題

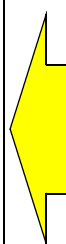
昨年度の実践を通して、図画工作科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 1年「ふしぎなせかいでみつけたよ〜くもにのって〜」の題材では、活動の流れに沿って自然な形で鑑賞が行われるように、学習形態を少人数のグループにした。ある程度表現を進めて、活動が止まっていた子どもが、教師と向かいの友達との対話の様子を見聞きして、自分の表現に取り入れようとする姿が見られた。また、グループで向かい合っていた子ども二人のうち、一人はお菓子の世界を、もう一人は遊べるところがたくさんある世界を想像していた。互いに「ここは…な場所でね」「このブランコは…」などと自分の想像した世界を語り合うことでさらに想像が膨らんでいくという様子であった。近くのグループの友達が渦巻き型の雲を作っていた様子を見て、自分でも作る子どもが現れるなど、自然に鑑賞と学び合いが生まれ、表現の自己決定に刺激を与えていたと言える。子どもが自らの目的に応じて自由に使える白画用紙を教室前方に置くという場づくりも行った。子どもたちは、紙を取りに移動する間に、他のグループの友達の作品を鑑賞したり、友達と対話したりしていた。このような場の工夫の成果として、子どもが必要としている造形的な気付きを、その子にとって必要なタイミングで得られたことが挙げられる。子どもの表現活動の流れを止めることなく、自然な形で発展させていくために、学習形態や場づくりといった工夫が有効であったと考える。
- ② 2年次から継続して、子どもとの対話を大切にしたい実践を行ってきた。前述した1年「ふしぎなせかいでみつけたよ〜くもにのって〜」の題材においても、子どもが想像したことを聞き出すような問い掛けを試みた。学習が始まって間もない時は、「雲に乗ってどんな世界に行きたいかな」「何を見たいかな」といった問い掛けに、反応が鈍い子どもたちであった。しかし、「雲にどんなポーズで乗りたいの」「誰と行きたいの」など、自分を主人公として考えることを促す問い掛けや、「これはどんな○○なの」「どんなところが不思議なの」などとより詳しく想像することを促す問い掛けから、子どもが自分なりの物語を紡いでいく姿が見られた。画用紙に花をいくつか描いた後活動が止まっていた子どもには、「雲の上のお花なんて、素敵だね」と共感の言葉掛けをすると、他にも花を描き加えていく姿が見られた。色とりどりの花が咲く空の世界という想像がさらに広がり、自信をもって表現し始めた姿と言える。このことから、子どもが表したいことを見付け想像を広げるために、教師が問い掛けたり、表現に共感する言葉掛けをしたりするという対話の在り方が有効であったと考える。
- ③ 昨年度までの鑑賞と対話の成果は、子どもが表したいことを見付け、想像を広げることに繋がったことだと言える。しかしそのことに留まり、造形的な視点で子どもの表現力を育むことまでは至らなかったと考える。鑑賞や対話をする際に、「形や色、奥行き、バランス」などの造形的な視点に基づいた問い掛けを行うなど、表現を工夫していく子どもを育むための手立てを探していきたい。

こうした成果と課題を踏まえ、図画工作科における自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 図画工作科における自律した学習者の姿

- ① 形や色などに関わる造形的な気付きを自ら獲得し、表現につなげる姿
- ② 表したいことに対して、物語を紡ぐように想像を広げていく姿
- ③ 造形的な視点に基づき、自分なりの意図をもって表現を発展させていく姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 自分にとって必要なタイミングで造形的な気付きを獲得できる場づくりをする。
- 想像を広げていく助けとなるように対話する。
- 造形的視点に基づいて、表現の意図を尋ねたり、表現や鑑賞の活動を価値付けたりする。

令和7年度「図画工作科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年，■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
図工科の学びに向かう力，人間性等	a1	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わう。	1.2AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	a2	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わう。	3.4AB(1)(2)		□	■	■	■	■
	a3	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わう。	5.6AB(1)(2)				□	■	■
	a4	形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。	1.2AB(1)(2) 3.4AB(1)(2) 5.6AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	b5	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b6	感覚や気持ちを生かしながら，どのように活動するのかについて考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b7	身近な自然物や場所などを基に造形的な活動を思い付く。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b8	新しい形や色などを思い付きながら，どのように活動するのかについて考える。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b9	材料や場所，空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く。	5.6A(1)(2)					■	■
	b10	構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら，どのように活動するのかについて考える。	5.6A(1)(2)					■	■

図工科の各領域の付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	c11	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c12	並べたり，つないだり，積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ，活動を工夫してつくる	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c13	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c14	前学年までに扱った材料や用具についての経験を生かす。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c15	組み合わせたり，切ってつないだり，形を変えたりするなどして，手や体全体を十分に働かせ，活動を工夫してつくる。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c16	活動に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c17	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かす。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c18	前学年までに習得した方法などを組み合わせたりするなどして，活動を工夫してつくる。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	d19	感じたこと，想像したことから，表したいことを見付ける。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d20	好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかを考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d21	感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付ける。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d22	表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかを考える。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d23	感じたこと，想像したこと，見たこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付ける。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	d24	形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，どのように主題を表すかを考える。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	e25	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e26	手や体全体の感覚などを働かせて表す。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e27	表したいことを工夫して描いたりつくったりする。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e28	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e29	前学年までの材料や用具についての経験を生かして表す。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e30	手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e31	表現方法に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e32	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かして表す。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e33	表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 B鑑賞	f34	自分たちの作品や身近な材料などを鑑賞する。(身の回りの作品など)	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f35	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f36	自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などを鑑賞する。(身近にある作品など)	3. 4B		□	■	■	■	■
	f37	造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	3. 4B		□	■	■	■	■
	f38	自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する。(親しみのある作品など)	5. 6B				□	■	■
	f39	造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりする。	5. 6B				□	■	■
	f40	鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を広げる。	1.2B(1)(2) 3.4B(1)(2) 5.6B(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の〔共通事項〕 「知識」 「思考力・判断力・表現力等」 A表現 B鑑賞	g41	形や色の同じ、違う、似ている、似ていない、大小、長短、丸・三角・四角などの大まかなまとまり、触った感じなどを捉える。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g42	偶然見付けた形や色、見立てなどを基に、自分のイメージをもつ。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g43	形の柔らかさ、色の暖かさ、それらの組み合わせによる感じ、重なり、前後、色の明るさ、質感などを捉える。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g44	形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に、自分のイメージをもつ。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g45	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化の動き、量感などを捉える。	5.6AB				□	■	■
	g46	形や色などの造形的な特徴を基に、具体的なイメージや、抽象的なイメージをもつ。	5.6AB				□	■	■

<図工科の学びを支える造形的な「見方・考え方」>

- a 対象や事象を形や色などの造形的視点で捉える。(形の大小, 色の濃淡, 動き, バランス, 色の鮮やかさ, 形や色の感じなど)
- b 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す。(表したいことをもつ, 自分と対象との関わりを深めるなど)

低学年	・並べる ・つなぐ ・積む ・重ねる ・かぶせる ・丸める ・破る ・巻く ・つるす ・たらす ・ちぎる ・丸める ・のぼす ・同じ違う ・似ている似ていない ・大小 ・長短 ・丸, 三角, 四角の大まかなまとまりでとらえる ・見立てる
中学年	・変形 ・質感 ・色の組み合わせ ・向き ・しかけや動くしくみ ・切ってつなぐ ・線の太さ ・絵の具の水加減(色の濃さ) ・色の混ぜ方 ・色の明るさ, やわらかさ ・意味付ける
高学年	・奥行き ・強調 ・線の強さ ・バランス ・前後関係 ・形や色が互いに響き合う配置 ・動き ・時間的な変化 ・色の鮮やかさ ・色の変化